

独自分析レポート

**建設業 6 業種 主要10社
過去 3 年における決算まとめ**

ヒューマンリソシア株式会社
「建設HR」編集部



目次

はじめに … 3

2019年度3月期決算 … 4

2020年度3月期決算 … 12

2021年度3月期決算 … 20

はじめに

「建設HR」編集部では、建設業界に特化した人材動向／市場動向／未来予測などの調査・分析から、独自調査レポートやマンスリーレポート、建設DXの最新ソリューションを紹介するセミナーなど、建設業界に関わるさまざまな情報発信を行っています。

本レポートでは、総合工事業（ゼネコン）、土木工事業、電気設備工事業、管工事業、プラント・エンジニアリング業、住宅・不動産業の6業種に分けて、主要上場企業各10社の過去3年分の決算資料から建設市場動向をまとめました。

新型コロナウイルス感染拡大の影響から、建設業関連各社の決算はどのように推移しているのか、来期（2022年3月期）についてはどのような状況になるのか、検討する参考資料としてご利用いただければ幸いです。

2019年度3月期決算

2019年度3月期決算の全体概況

2019年3月期の主要建設企業の決算結果を見ると、ゼネコン、電気設備工事業、管工事業では10社中9社、住宅建設業では8社、土木工事業とプラントエンジニアリング業では7社が増収となっており、建設業界全体として高い成長を実現した年度であったと言えます。

総務省の労働力調査によれば、2018年度の建設業の平均就業者数は500万人で、前年度よりも1万人増加しています。このような成長の背景には、東京オリンピック関連の工事やインフラ整備、大型再開発事業などを確実に消化できる人材を確保できたことがあると思われます。

また、2020年3月期の業績予想でもプラントエンジニアリング業を除く5業種では、売上高が前期を上回る予想になっています。増加する工事を確実に消化できる人材の確保が、事業拡大を目指す建設業各社にとって、引き続き大きな課題になると考えられます。

<総合工事業（ゼネコン）> 2019年度3月期決算概況

■ 10社中9社が増収、うち6社が増収増益も、利益面で苦しく

総合工事業（ゼネコン）主要10社の2019年3月期決算は、業界トップの大林組が売上高を初の2兆円台に乗せるなど好調な結果となった企業が多く、10社中9社が増収、うち大林組、清水建設、五洋建設、戸田建設、前田建設工業、三井住友建設の6社が増収増益となりました（=図表1）。首都圏再開発工事を中心とした手持ちの大型工事の消化が順調に進んで完成工事高が増加しているようです。

2020年3月期の業績予想についても、底堅い民間建設需要、国土強靱化関連の公共投資増加を背景に7社が増収、うち清水建設、五洋建設、安藤ハザマの3社が増収増益を予想しています。一方、減益を予想する企業が7社あるなど、収益性の面では厳しい業績になることが見込まれています。

【図表1 総合工事業主要10社の2019年3月期（連結）の実績と2020年3月期の予想値】

企業名	2019年3月期					2020年3月期業績予想			
	売上高 (百万円)	前期比	経常利益 (百万円)	前期比	傾向	売上高 (百万円)	前期比	経常利益 (百万円)	前期比
大林組	2,039,685	107.3%	163,054	113.3%	増収増益	2,030,000	99.5%	156,500	96.0%
鹿島建設	1,974,269	107.8%	162,901	90.6%	増収減益	2,040,000	103.3%	127,000	78.0%
清水建設	1,664,960	109.6%	133,957	107.9%	増収増益	1,760,000	105.7%	135,000	100.8%
大成建設	1,650,877	104.1%	157,936	85.2%	増収減益	1,740,000	105.4%	149,000	94.3%
長谷工コーポレーション	890,981	109.6%	100,369	99.9%	増収減益	860,000	96.5%	85,000	84.7%
五洋建設	541,949	102.9%	26,569	103.4%	増収増益	580,000	107.0%	29,500	111.0%
戸田建設	510,436	119.0%	37,493	113.5%	増収増益	520,000	101.9%	32,800	87.5%
前田建設工業	492,087	105.2%	38,363	103.6%	増収増益	475,000	96.5%	32,800	85.5%
三井住友建設	448,758	107.5%	28,862	101.4%	増収増益	460,000	102.5%	25,000	86.6%
安藤ハザマ	359,971	95.5%	22,495	64.7%	減収減益	418,800	116.3%	29,600	131.6%

<土木工事業> 2019年度3月期決算概況

■ 10社中7社が増収も、利益面でやや苦戦

土木工事業主要10社の19年3月期決算は、豊富な手持ち工事の消化が順調に進んで7社で増収となっておりますが、増収増益となったのは日本道路、川田テクノロジーズ、ライト工業の3社にとどまっています（=図表2）。資材コストや人件費の高騰等の影響で、経常利益については6社が前期割れとなっており、利益面ではやや苦しい決算と言えます。

特に道路舗装大手5社（NIPPO、前田道路、日本道路、東亜道路工業、世紀東急工業）について見ると、日本道路以外の4社が減益、うち3社は2ケタ減と大幅な減益となっており、利益面での苦戦が特に目立ちました。

20年3月期の業績予想については10社中8社が増収、うちNIPPO、前田道路、東鉄工業、東亜道路工業、ライト工業の5社が増収増益と予想しています。一方、利益面では減益予想が5社と、苦戦が続く企業もありそうです。

【図表2 土木工事業主要10社の2019年3月期（連結）の実績と2020年3月期の予想値】

企業名	2019年3月期					2020年3月期業績予想			
	売上高 (百万円)	前期比	経常利益 (百万円)	前期比	傾向	売上高 (百万円)	前期比	経常利益 (百万円)	前期比
NIPPO	413,236	102.2%	39,022	96.7%	増収減益	420,000	101.6%	40,000	102.5%
前田道路	223,757	95.5%	17,636	74.1%	減収減益	228,000	101.9%	19,100	108.3%
日本道路	146,294	104.0%	8,160	112.0%	増収増益	150,000	102.5%	8,100	99.3%
川田テクノロジーズ	118,369	110.4%	8,541	186.2%	増収増益	120,000	101.4%	5,800	67.9%
東鉄工業	134,739	102.7%	12,704	95.5%	増収減益	137,000	101.7%	13,000	102.3%
ピーエス三菱	110,279	96.0%	8,789	164.4%	減収増益	110,000	99.7%	3,500	39.8%
東亜道路工業	103,676	105.6%	3,728	89.1%	増収減益	108,000	104.2%	5,300	142.2%
ライト工業	102,825	102.7%	10,124	109.9%	増収増益	103,000	100.2%	10,300	101.7%
世紀東急工業	74,036	90.7%	5,584	89.5%	減収減益	78,200	105.6%	5,300	94.9%
日特建設	63,264	100.5%	4,004	97.2%	増収減益	61,500	97.2%	3,600	89.9%

＜電気設備工事業＞ 2019年度3月期決算概況

■ 10社中9社が増収、うち7社が増収増益と非常に好調

電気設備工事業主要10社の19年3月期決算は、10社中9社が増収、うち7社が増収増益となっており、非常に好調な結果となりました（＝図表3）。特に、コムシスホールディングスと協和エクシオは同業他社を経営統合したことがプラス要因となり、売上高、経常利益ともに2ケタ増の大幅な増加となっています。

20年3月期の業績予想については10社すべてが増収、うち7社が増収増益を予想しており、全体的に好調な決算が続くと見込まれます。経営統合によるシナジー効果を狙うコムシスホールディングスと協和エクシオは、共に売上高の2ケタ増を予想しています。

【図表3 電気設備工事業主要10社の2019年3月期（連結）の実績と2020年3月期の予想値】

企業名	2019年3月期					2020年3月期業績予想			
	売上高 (百万円)	前期比	経常利益 (百万円)	前期比	傾向	売上高 (百万円)	前期比	経常利益 (百万円)	前期比
関電工	563,550	111.1%	30,795	102.5%	増収増益	600,000	106.5%	33,600	109.1%
きんでん	521,283	104.1%	42,491	105.2%	増収増益	560,000	107.4%	43,000	101.2%
コムシスホールディングス	481,783	126.8%	36,071	117.5%	増収増益	540,000	112.1%	38,500	106.7%
協和エクシオ	423,727	135.5%	33,431	126.4%	増収増益	495,000	116.8%	32,800	98.1%
九電工	408,143	113.1%	39,924	106.9%	増収増益	418,000	102.4%	40,700	101.9%
トーエネック	218,984	105.7%	10,146	113.8%	増収増益	220,000	100.5%	9,100	89.7%
ユアテック	204,054	95.7%	10,176	81.8%	減収減益	210,000	102.9%	7,400	72.7%
日本電設工業	182,464	102.0%	15,826	94.9%	増収減益	191,200	104.8%	16,400	103.6%
住友電設	157,016	107.0%	11,561	111.2%	増収増益	160,000	101.9%	11,700	101.2%
中電工	153,322	103.4%	8,921	76.0%	増収減益	158,000	103.1%	10,300	115.5%

<管工事業> 2019年度3月期決算概況

■ 10社中9社が増収、うち4社が増収増益

主に空調設備工事等を手掛ける管工事業主要10社の19年3月期決算は、10社中9社が増収、うち高砂熱学工業、三機工業、ダイダン、テクノ菱和の4社が増収増益であり、好調な結果となりました（＝図表4）。特に業界3位の三機工業は産業空調を中心とした事業の拡大により、売上高が前期比24.8%増、経常利益が前期比50.7%増と、大幅な増収増益となっています。

20年3月期の業績予想については10社中7社が増収、うち高砂熱学工業、大気社、ダイダン、日比谷総合設備の4社が増収増益を予想しています。利益面では5社が前期割れを予想しており、収益性の確保が課題と言えます。

【図表4 管工事業主要10社の2019年3月期（連結）の実績と2020年3月期の予想値】

企業名	2019年3月期					2020年3月期業績予想			
	売上高 (百万円)	前期比	経常利益 (百万円)	前期比	傾向	売上高 (百万円)	前期比	経常利益 (百万円)	前期比
高砂熱学工業	319,834	110.3%	18,359	105.1%	増収増益	320,000	100.1%	18,500	100.8%
大気社	225,402	97.2%	15,085	115.3%	減収増益	239,000	106.0%	15,300	101.4%
三機工業	212,314	124.8%	11,204	150.7%	増収増益	200,000	94.2%	9,000	80.3%
ダイダン	155,565	108.4%	8,057	105.0%	増収増益	161,000	103.5%	8,200	101.8%
新日本空調	122,389	109.5%	4,235	91.2%	増収減益	115,000	94.0%	5,200	122.8%
朝日工業社	88,979	104.6%	3,664	91.2%	増収減益	92,000	103.4%	2,400	65.5%
日比谷総合設備	70,035	104.8%	3,212	78.5%	増収減益	75,000	107.1%	5,000	155.7%
テクノ菱和	67,391	111.1%	4,857	141.8%	増収増益	63,000	93.5%	3,010	62.0%
大成温調	54,849	105.7%	2,170	77.2%	増収減益	57,400	104.7%	2,000	92.2%
ヤマト	46,272	100.4%	3,273	89.8%	増収減益	48,000	103.7%	3,180	97.2%

<プラントエンジニアリング業> 2019年度3月期決算概況

■ 10社中7社が増収増益と好調な決算

石油精製、化学、製鉄、発電等の製造設備の施工などを手掛けるプラントエンジニアリング主要10社の19年3月期決算は、10社中7社が増収増益、うち東芝プラントシステム、タクマ、メタウォーター、太平電業、新興プランテック、富士古河E & Cの6社の経常利益が2ケタ増と、好調な結果となりました（=図表5）。ただし、業界2位の千代田化工建設では米国の大型LNG（液化天然ガス）プロジェクトにおいて想定外のコスト増が発生したとして、大幅な赤字を計上しています。

20年3月期の業績予想については、千代田化工建設、栗田工業、タクマ、メタウォーター、太平電業の5社が増収増益を予想しており、好調な決算が続くと見込まれます。

【図表5 プラントエンジニアリング業主要10社の2019年3月期（連結）の実績と2020年3月期の予想値】

企業名	2019年3月期					2020年3月期業績予想			
	売上高 (百万円)	前期比	経常利益 (百万円)	前期比	傾向	売上高 (百万円)	前期比	経常利益 (百万円)	前期比
日揮	619,241	85.7%	32,304	129.6%	減収増益	500,000	80.7%	26,000	80.5%
千代田化工建設	341,952	66.9%	-192,998	—	減収減益	390,000	114.1%	12,000	—
東洋エンジニアリング	294,993	87.9%	3,426	—	減収増益	240,000	81.4%	3,000	87.6%
栗田工業	259,409	109.5%	23,919	108.2%	増収増益	278,000	—	29,200	—
東芝プラントシステム	244,239	105.0%	22,324	110.3%	増収増益	230,000	94.2%	19,000	85.1%
タクマ	121,950	103.2%	12,334	115.6%	増収増益	130,000	106.6%	12,500	101.3%
メタウォーター	117,342	105.8%	7,624	117.9%	増収増益	125,000	106.5%	8,000	104.9%
太平電業	101,141	124.3%	4,013	117.3%	増収増益	104,000	102.8%	5,200	129.6%
新興プランテック	97,331	108.6%	7,939	119.7%	増収増益	—	—	—	—
富士古河E&C	87,901	109.5%	4,852	112.7%	増収増益	84,000	95.6%	4,800	98.9%

* 栗田工業は、20年3月期より会計基準を変更する予定のため、前期比の増減率を記載していません

* 新興プランテックは、19年7月1日にJXエンジニアリング株式会社と経営統合することから、20年3月期の連結業績予想については、現時点では予測が困難として開示していません

＜住宅建設業＞ 2019年度3月期決算概況

■ 10社中4社が増収増益も、6社が減益

住宅建設業主要10社の19年3月期決算は、大和ハウス工業、ミサワホーム、フジ住宅、ミサワホーム中国の4社が増収増益となりました（＝図表6）。特に業界トップの大和ハウス工業は売上高、経常利益ともに過去最高を記録し、業界の成長を牽引しています。ただし、経常利益を見ると6社が減益、うち2社が赤字となっており、利益面では厳しい決算の企業も多くなっています。

20年3月期の業績予想については、大和ハウス工業、飯田グループホールディングス、積水化学工業、サンヨーホームズ、アールシーコアの5社が増収増益と予想する一方、2社が減収減益を見込むなど、企業により明暗が分かれています。

【図表6 住宅建設業主要10社の2019年3月期（連結）の実績と2020年3月期の予想値】

企業名	2019年3月期					2020年3月期業績予想			
	売上高 (百万円)	前期比	経常利益 (百万円)	前期比	傾向	売上高 (百万円)	前期比	経常利益 (百万円)	前期比
大和ハウス工業	4,143,505	109.2%	359,462	104.3%	増収増益	4,250,000	102.6%	376,000	104.6%
飯田グループホールディングス	1,344,987	100.7%	94,123	93.8%	増収減益	1,370,000	101.9%	96,000	102.0%
住友林業	1,308,893	107.1%	51,436	88.9%	増収減益	1,123,000	85.8%	57,000	110.8%
積水化学工業	1,142,713	103.2%	93,146	99.2%	増収減益	1,175,000	102.8%	100,000	107.4%
ミサワホーム	399,347	102.8%	9,114	118.8%	増収増益	-	-	-	-
フジ住宅	115,710	111.4%	6,445	105.0%	増収増益	107,000	92.5%	5,000	77.6%
サンヨーホームズ	53,888	99.6%	1,544	80.8%	減収減益	69,850	129.6%	1,910	123.7%
ミサワホーム中国	29,473	106.8%	467	224.2%	増収増益	26,450	89.7%	200	42.8%
細田工務店	22,100	116.2%	-612	-	増収減益	20,379	92.2%	215	-
アールシーコア	12,397	92.0%	-680	-	減収減益	19,000	153.3%	280	-

* ミサワホームの普通株式は、2019年12月30日付で上場廃止となる予定であるため、2020年3月期の連結業績予想を開示していません

2020年度3月期決算

2020年度3月期決算の全体概況

2020年3月期の決算は、景気回復を背景に民間設備投資が増加、政府の公共工事も堅調に推移したところに東京オリンピック・パラリンピックの特需も加わり6業種ともに好調な結果となりました。第4四半期（2020年1月～3月）における新型コロナウイルス感染拡大が業績に与えたダメージは限定的なものであり、各社の決算には大きな影響を与えませんでした。

しかし、2021年3月期については新型コロナウイルス感染拡大が業績に与えるマイナスの影響が各業種ともに懸念されており、不透明感が漂っています。

2021年3月期の業績予想を見ると、総合工事業では6社が大幅な減収減益を予想しています。総合工事業の業績は電気工事業や管工事業にも大きな影響を与えることから、建設業界全体が厳しい経営環境になるのではないかと危惧されます。

社会インフラの老朽化や多発する自然災害への対策が必要なことから、政府の建設投資は堅調に推移すると予想されています。そのため、土木建設業は比較的堅調な業績予想になっていますが、新型コロナウイルス感染拡大の状況によっては政府の建設投資が削減されることも懸念され、予断を許さない状況だと言えます。

＜総合工事業（ゼネコン）＞2020年度3月期決算概況

■ 8社が増収となるも収益性は低下傾向、新型コロナウイルス感染の影響もあり2021年3月期は6社が減収減益予想

売上高は8社が前期を上回り、10社合計の売上高は前期を2.1%上回っています（図表7）。大林組とフジタ（単体）は過去最高の売上高となりました。しかし、営業利益、経常利益は6社が前期割れ、純利益についても7社が前期割れとなっており、10社合計では営業利益が前期比2.5%減、経常利益が同3.4%減、純利益が同6.9%減であり、収益性は低下傾向です。

2021年3月期の業績予想を見ると、新型コロナウイルス感染拡大の影響を織り込んだ数値を発表した7社のうち6社は大幅な減収減益予想になっており、厳しい経営環境が予測されています（図表8）。

【図表7 総合工事業主要10社の2020年3月期（連結）の実績】

企業名	2020年3月期								傾向
	売上高 (百万円)	前年同期 増減率	営業利益 (百万円)	前年同期 増減率	経常利益 (百万円)	前年同期 増減率	純利益 (百万円)	前年同期 増減率	
大林組	2,073,043	1.6%	152,871	-1.7%	159,005	-2.5%	113,093	-0.1%	増収減益
鹿島建設	2,010,751	1.8%	131,987	-7.5%	146,645	-10.0%	103,242	-6.0%	増収減益
大成建設	1,751,330	6.1%	167,755	9.4%	173,347	9.8%	122,087	8.5%	増収増益
清水建設	1,698,292	2.0%	133,894	3.2%	137,986	3.0%	98,977	-0.7%	増収減益
長谷工コーポレーション	846,029	-5.0%	85,925	-12.7%	85,253	-15.1%	59,851	-31.5%	減収減益
五洋建設	573,842	5.9%	33,161	13.4%	32,545	22.5%	23,352	23.6%	増収増益
フジタ(単体)	520,802	2.2%	9,886	-54.9%	8,561	-61.1%	6,013	-60.7%	増収減益
戸田建設	518,683	1.6%	35,243	2.1%	38,272	2.1%	25,845	1.0%	増収増益
前田建設工業	487,856	-0.9%	34,045	-5.3%	36,597	-4.6%	14,342	-40.1%	減収減益
三井住友建設	472,402	5.3%	24,765	-15.2%	23,884	-17.2%	15,550	-17.4%	増収減益
合計	10,953,030	2.1%	809,532	-2.5%	842,095	-3.4%	582,352	-6.9%	増収減益

【図表8 総合工事業主要10社の2021年3月期（連結）の業績予想】

企業名	2021年3月期の業績予想					
	売上高	前期比	営業利益	前期比	純利益	前期比
大林組			-			
鹿島建設	1,870,000	-7.0%	111,000	-15.9%	80,000	-22.5%
大成建設	1,450,000	-17.2%	81,000	-51.7%	56,000	-54.1%
清水建設			-			
長谷工コーポレーション	800,000	-5.4%	72,500	-15.6%	49,000	-18.1%
五洋建設	493,000	-14.1%	27,500	-17.1%	18,500	-20.8%
フジタ(単体)			-			
戸田建設	497,000	-4.2%	26,000	-26.2%	19,000	-26.5%
前田建設工業	662,000	35.7%	32,400	-4.8%	10,000	-30.3%
三井住友建設	400,000	-15.3%	18,000	-27.3%	10,000	-35.7%

<土木工事業> 2020年度3月期決算概況

■ 8社が増収増益となり好調な決算、21年3月期についても比較的落ち込みは小さい

売上高は9社が前年を上回り、8社が増収増益となっています（図表9）。10社合計の売上高は前期比5.0%増、営業利益は同2.8%増、経常利益は同2.5%増、純利益は同14.0%増となっており、土木工事業界は非常に好調な決算となっています。

2021年3月期の業績予想については、新型コロナウイルス感染拡大の影響を織り込まない予想を発表した4社（NIPPO、日本道路、東洋建設、ピーエス三菱）では売上高が前期を上回る予想となっています（図表11）。影響を織り込み済みの数値を発表した4社（大豊建設、川田テクノロジーズ、飛鳥建設、東亜道路工業）は前期割れの売上高予想となっていますが、総合工事業ほどの落ち込みにはなっていません。

売上の中心となる公共投資による土木工事が堅調に推移すると見られていることから、2021年3月期についても土木工事業の落ち込みは、他業種に比べ比較的小さくなるのではないかと考えられます。

【図表9 総合工事業主要10社の2020年3月期（連結）の実績】

企業名	2020年3月期								傾向
	売上高 (百万円)	前年同期 増減率	営業利益 (百万円)	前年同期 増減率	経常利益 (百万円)	前年同期 増減率	純利益 (百万円)	前年同期 増減率	
NIPPO	429,066	3.8%	36,227	-6.3%	38,226	-2.0%	23,594	-7.5%	増収減益
前田道路	237,812	6.3%	19,575	14.3%	19,877	12.7%	18,826	64.0%	増収増益
東亜建設工業	190,278	9.5%	7,957	99.9%	7,604	92.8%	5,007	63.0%	増収増益
東洋建設	174,805	6.7%	9,268	18.6%	9,168	13.6%	5,766	5.9%	増収増益
大豊建設	162,811	8.0%	8,511	-7.1%	8,578	-6.7%	6,647	8.2%	増収増益
日本道路	148,699	1.6%	7,515	-3.2%	7,853	-3.8%	6,792	49.3%	増収増益
飛鳥建設	134,859	4.7%	7,848	8.7%	7,382	5.2%	5,109	0.7%	増収増益
川田テクノロジーズ	127,048	7.3%	6,759	11.4%	8,543	0.0%	6,449	6.4%	増収増益
東亜道路工業	109,123	5.3%	4,753	30.1%	4,869	30.6%	4,116	-	増収増益
ピーエス三菱	105,744	-4.1%	4,881	-44.2%	4,897	-44.3%	3,214	-59.4%	減収減益
合計	1,820,245	5.0%	113,294	2.8%	116,997	2.5%	85,520	14.0%	増収増益

【図表10 総合工事業主要10社の2021年3月期（連結）の業績予想】

企業名	2021年3月期の業績予想					
	売上高	前期比	営業利益	前期比	純利益	前期比
NIPPO	440,000	2.5%	41,000	13.2%	28,000	18.7%
前田道路			-			
東亜建設工業			-			
東洋建設	175,000	0.1%	8,100	-12.6%	5,000	-13.3%
大豊建設	160,000	-1.7%	9,000	5.7%	6,000	-9.7%
日本道路	151,000	1.5%	8,000	6.5%	5,400	-20.5%
飛鳥建設	133,000	-1.4%	5,800	-26.1%	3,300	-35.4%
川田テクノロジーズ	115,000	-9.5%	3,500	-48.2%	2,500	-61.2%
東亜道路工業	105,000	-3.8%	4,500	-5.3%	3,000	-27.1%
ピーエス三菱	116,000	9.7%	4,200	-14.0%	2,800	-12.9%

<電気設備工事業> 2020年度3月期決算概況

■ 9社が増収、5社が増収増益となり好調な決算、2021年3月期については不透明要素が多い

売上高は9社が前年を上回り、5社が増収増益となっています（図表11）。10社合計の売上高は前期比11.2%増、営業利益は7.7%増、経常利益は6.4%増となっています。純利益は8.7%減となっていますが、これは協和エクシオ、ユアテック、中電工の3社で前期に特別損益として計上した経営統合に伴う負ののれん発生益によるものであり、売上高・収益性ともに電気工事業界は好調な決算であったと言えます。

2021年3月期の業績予想については8社が未定としており、新型コロナウイルス感染拡大が業績に与える影響について不透明要素が多いと考えられています（図表12）。業績予想を発表した電気通信設備工事大手2社では、コムシスホールディングスは売上高が前期比0.2%減、営業利益同2.4%減、純利益同1.9%減、協和エクシオは売上高が同0.1%増、営業利益同2.9%増、純利益同35.2%増としており、比較的堅調に業績は推移すると予想しています。

【図表11 電気設備工事業主要10社の2020年3月期（連結）の実績】

企業名	2020年3月期								傾向
	売上高 (百万円)	前年同期 増減率	営業利益 (百万円)	前年同期 増減率	経常利益 (百万円)	前年同期 増減率	純利益 (百万円)	前年同期 増減率	
関電工	616,143	9.3%	34,693	15.6%	35,565	15.5%	22,515	14.3%	増収増益
きんでん	585,905	12.4%	45,026	11.6%	46,727	10.0%	32,500	12.7%	増収増益
コムシスホールディングス	560,882	16.4%	38,953	10.5%	40,064	11.1%	25,994	-7.2%	増収減益
協和エクシオ	524,574	23.8%	31,100	-1.9%	30,669	-8.3%	15,603	-61.2%	増収減益
九電工	428,939	5.1%	36,022	-2.0%	38,643	-3.2%	26,245	-1.7%	増収減益
トーエネック	224,843	2.7%	13,307	20.7%	12,511	23.3%	9,314	39.6%	増収増益
ユアテック	202,760	-0.6%	6,762	-28.0%	7,338	-27.9%	4,470	-32.6%	減収減益
日本電設工業	198,244	8.6%	16,495	11.1%	17,680	11.7%	11,274	14.8%	増収増益
住友電設	172,910	10.1%	13,581	24.0%	14,201	22.8%	9,772	84.7%	増収増益
中電工	168,888	10.2%	8,333	28.5%	11,188	25.4%	4,795	-22.2%	増収減益
合計	3,684,088	11.2%	244,272	7.7%	254,586	6.4%	162,482	-8.7%	増収減益

【図表12 電気設備工事業主要10社の2021年3月期（連結）の業績予想】

企業名	2021年3月期の業績予想					
	売上高	前期比	営業利益	前期比	純利益	前期比
関電工	-	-	-	-	-	-
きんでん	-	-	-	-	-	-
コムシスホールディングス	560,000	-0.2%	38,000	-2.4%	25,500	-1.9%
協和エクシオ	525,000	0.1%	32,000	2.9%	21,100	35.2%
九電工	-	-	-	-	-	-
トーエネック	-	-	-	-	-	-
ユアテック	-	-	-	-	-	-
日本電設工業	-	-	-	-	-	-
住友電設	-	-	-	-	-	-
中電工	-	-	-	-	-	-

<管工事業> 2020年度3月期決算概況

■ 6社が増収、5社が増収増益となり好調な決算、21年3月期については不透明要素が多い

売上高は6社が前年を上回り、5社が増収増益となっています（図表13）。10社合計の売上高は前期比2.2%増、営業利益は同12.1%増、経常利益は同9.6%増、純利益は同6.4%増となっており、管工事業界は好調な決算であったと言えます。2021年3月期の業績予想については8社が未定としており、新型コロナウイルス感染拡大が業績に与える影響について不透明要素が多いと考えられています（図表14）。

業績予想を発表した三機工業は売上高が前期比3.7%減、営業利益同15.7%減、純利益同14.2%減、日比谷総合設備は売上高が同10.4%減、営業利益同45.8%減、純利益同57.6%減と減収減益の予想になっています。

【図表13 管工事業主要10社の2020年3月期（連結）の実績】

企業名	2020年3月期								傾向
	売上高 (百万円)	前年同期 増減率	営業利益 (百万円)	前年同期 増減率	経常利益 (百万円)	前年同期 増減率	純利益 (百万円)	前年同期 増減率	
高砂熱学工業	320,893	0.3%	17,900	4.0%	19,286	5.0%	13,231	4.9%	増収増益
大気社	225,378	-0.01%	15,439	10.0%	15,991	6.0%	9,132	3.3%	減収増益
三機工業	207,684	-2.2%	10,674	0.3%	11,224	0.2%	7,576	-16.2%	減収減益
ダイダン	169,229	8.8%	9,063	18.3%	9,282	15.2%	6,399	17.1%	増収増益
新日本空調	120,106	-1.9%	6,409	65.0%	6,810	60.8%	4,603	48.7%	減収増益
朝日工業社	103,964	16.8%	3,661	10.7%	3,887	6.1%	2,319	-12.3%	増収減益
日比谷総合設備	75,890	8.4%	3,690	80.1%	4,239	32.0%	3,537	30.5%	増収増益
テクノ菱和	60,926	-9.6%	4,263	-5.6%	4,505	-7.2%	2,927	-3.7%	減収減益
大成温調	58,074	5.9%	1,879	-4.7%	2,132	-1.8%	1,477	161.0%	増収増益
ヤマト	51,464	11.2%	3,639	18.8%	3,846	17.5%	2,398	1.8%	増収増益
合計	1,393,608	2.2%	76,617	12.1%	81,202	9.6%	53,599	6.4%	増収増益

【図表14 管工事業主要10社の2021年3月期（連結）の業績予想】

企業名	2021年3月期の業績予想					
	売上高	前期比	営業利益	前期比	純利益	前期比
高砂熱学工業	-	-	-	-	-	-
大気社	-	-	-	-	-	-
三機工業	200,000	-3.7%	9,000	-15.7%	6,500	-14.2%
ダイダン	-	-	-	-	-	-
新日本空調	-	-	-	-	-	-
朝日工業社	-	-	-	-	-	-
日比谷総合設備	68,000	-10.4%	2,000	-45.8%	1,500	-57.6%
テクノ菱和	-	-	-	-	-	-
大成温調	-	-	-	-	-	-
ヤマト	-	-	-	-	-	-

<プラントエンジニアリング業> 2020年度3月期決算概況

■ 7社が増収、6社が増収増益となり好調な決算、21年3月期については減収減益の予想

売上高は7社が前年を上回り、6社が増収増益となっています（図表15）。10社合計の売上高は前期比5.8%減となっていますが、前期はマイナスであった営業利益、経常利益、純利益がいずれもプラスに転じており、決算は改善傾向にあると思われます。

2021年3月期については、業績予想を発表した7社のうち4社が売上高は前期を上回るとしており、プラント・エンジニアリング業界では、新型コロナウイルス感染の業績に与える影響はそれほど大きくないと見られているようです（図表16）。

【図表15 プラント・エンジニアリング業主要10社の2020年3月期（連結）の実績】

企業名	2020年3月期								傾向
	売上高 (百万円)	前年同期 増減率	営業利益 (百万円)	前年同期 増減率	経常利益 (百万円)	前年同期 増減率	純利益 (百万円)	前年同期 増減率	
日揮	480,809	-22.4%	20,234	-13.0%	22,367	-30.8%	4,117	-82.8%	減収減益
千代田化工建設	385,925	12.9%	26,789	-	18,644	-	12,177	-	増収増益
栗田工業	264,807	2.9%	27,479	38.4%	26,691	31.7%	18,287	51.8%	増収増益
東洋エンジニアリング	219,094	-25.7%	1,890	-	2,467	-28.0%	1,664	-	減収増益
レイズネクスト	140,578	44.4%	10,040	30.7%	10,239	29.0%	12,258	134.6%	増収増益
タクマ	134,454	10.3%	9,600	-17.3%	10,300	-16.5%	7,445	-15.9%	増収減益
メタウォーター	128,723	9.7%	8,223	8.1%	8,132	6.7%	5,677	9.8%	増収増益
太平電業	119,459	18.1%	9,450	170.6%	9,580	138.7%	6,190	121.4%	増収増益
富士古河E&C	81,986	-6.7%	5,929	20.7%	5,807	19.7%	3,678	19.3%	減収増益
田辺工業	37,708	0.6%	2,623	7.3%	2,685	7.7%	1,880	22.8%	増収増益
合計	1,993,543	-4.0%	122,257	-	116,912	-	73,373	-	減収増益

【図表16 管工事業主要10社の2021年3月期（連結）の業績予想】

企業名	2021年3月期の業績予想					
	売上高	前期比	営業利益	前期比	純利益	前期比
日揮	480,000	-0.2%	20,000	-1.2%	8,000	94.3%
千代田化工建設	-	-	-	-	-	-
栗田工業	268,000	1.2%	22,500	-18.1%	16,350	-10.6%
東洋エンジニアリング	210,000	-4.2%	500	-73.5%	0	-100.0%
レイズネクスト	145,000	3.1%	9,400	-6.4%	6,300	-48.6%
タクマ	135,000	0.4%	10,800	12.5%	8,400	12.8%
メタウォーター	130,000	1.0%	9,000	9.4%	6,200	9.2%
太平電業	-	-	-	-	-	-
富士古河E&C	-	-	-	-	-	-
田辺工業	35,000	-7.2%	1,450	-44.7%	1,000	-46.8%

＜住宅建設業＞ 2020年度3月期決算概況

■ 7社が増収、4社が増収増益となり堅調な決算、2021年3月期については減収減益の予想

売上高は7社が前年を上回り、4社が増収増益となっています（図表17）。10社合計の売上高は前期比1.2%増、営業利益は同2.5%増、経常利益は同2.2%増、純利益は同2.0%増となっており、住宅・不動産業界は堅調な決算であったと言えます。

2021年3月期の業績予想を発表した6社はすべて減収減益の予想になっています（図表18）。大和ハウス工業、三菱地所、住友不動産の3社では売上高を二ケタの減収と予想しており、新型コロナウイルス感染拡大が業績に与えるマイナスの影響は大きくなりそうです。

【図表17 住宅・不動産業主要10社の2020年3月期（連結）の実績】

企業名	2020年3月期								傾向
	売上高 (百万円)	前年同期 増減率	営業利益 (百万円)	前年同期 増減率	経常利益 (百万円)	前年同期 増減率	純利益 (百万円)	前年同期 増減率	
大和ハウス工業	4,380,209	5.7%	381,114	2.4%	367,669	2.3%	233,603	-1.6%	増収減益
三井不動産	1,905,642	2.4%	280,617	7.0%	258,510	1.7%	183,972	9.1%	増収増益
大東建託	1,586,293	-0.3%	127,956	0.7%	133,028	0.6%	90,380	0.5%	減収増益
飯田グループホールディングス	1,402,019	4.2%	83,513	-14.0%	78,766	-16.3%	53,752	-17.9%	増収減益
三菱地所	1,302,196	3.1%	240,768	5.1%	219,572	6.3%	148,451	10.3%	増収増益
積水化学工業	1,129,254	-1.2%	87,768	-8.3%	86,996	-6.6%	58,931	-10.8%	減収減益
住友林業	1,104,094	-15.6%	51,377	4.3%	58,824	14.4%	27,853	-4.5%	減収減益
住友不動産	1,013,512	0.1%	234,332	6.8%	220,520	8.5%	140,997	8.4%	増収増益
野村不動産ホールディングス	676,495	1.2%	81,905	3.5%	73,077	5.4%	48,886	6.6%	増収増益
スターツコーポレーション	209,091	7.1%	23,912	4.8%	24,122	0.5%	15,059	-1.3%	増収減益
合計	14,708,805	1.2%	1,593,262	2.5%	1,521,084	2.2%	1,001,884	2.0%	増収増益

【図表18 住宅・不動産業主要10社の2021年3月期（連結）の業績予想】

企業名	2021年3月期の業績予想					
	売上高	前期比	営業利益	前期比	純利益	前期比
大和ハウス工業	3,650,000	-16.7%	170,000	-55.4%	105,000	-55.1%
三井不動産	1,850,000	-2.9%	200,000	-28.7%	120,000	-34.8%
大東建託	-	-	-	-	-	-
飯田グループホールディング	-	-	-	-	-	-
三菱地所	1,142,000	-12.3%	185,000	-23.2%	110,000	-25.9%
積水化学工業	1,107,400	-1.9%	70,000	-20.2%	43,500	-26.2%
住友林業	-	-	-	-	-	-
住友不動産	880,000	-13.2%	204,000	-12.9%	130,000	-7.8%
野村不動産ホールディングス	-	-	-	-	-	-
スターツコーポレーション	190,000	-9.1%	15,500	-35.2%	10,000	-33.6%

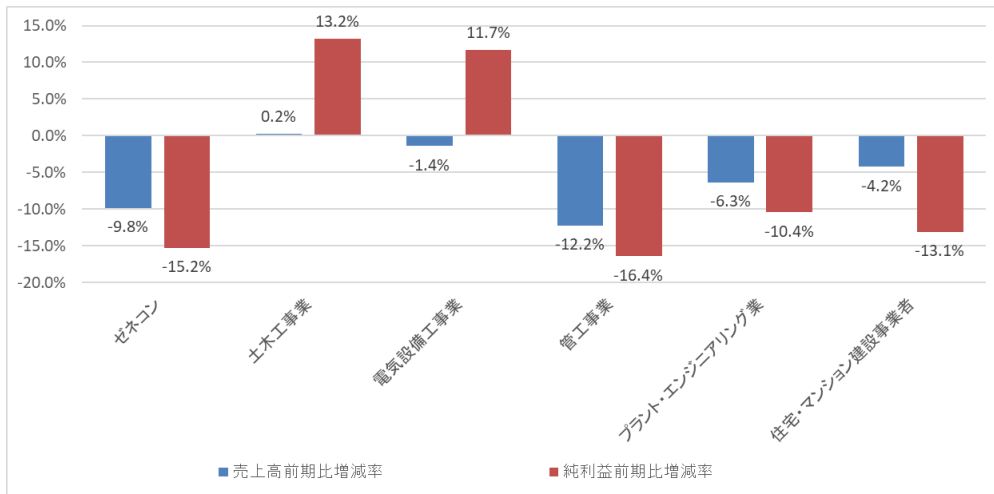
2021年度3月期決算

2021年度3月期決算の全体概況

各業種主要10社合計の売上高と純利益の前期比を見ると、6業種中5業種で売上高は前期割れ、うちゼネコン、管工事業、プラント・エンジニアリング業、住宅・不動産業は純利益も前期割れとなっており、建設関連業界にとって21年3月期は厳しい経営環境にあったことがわかります（図表19）。

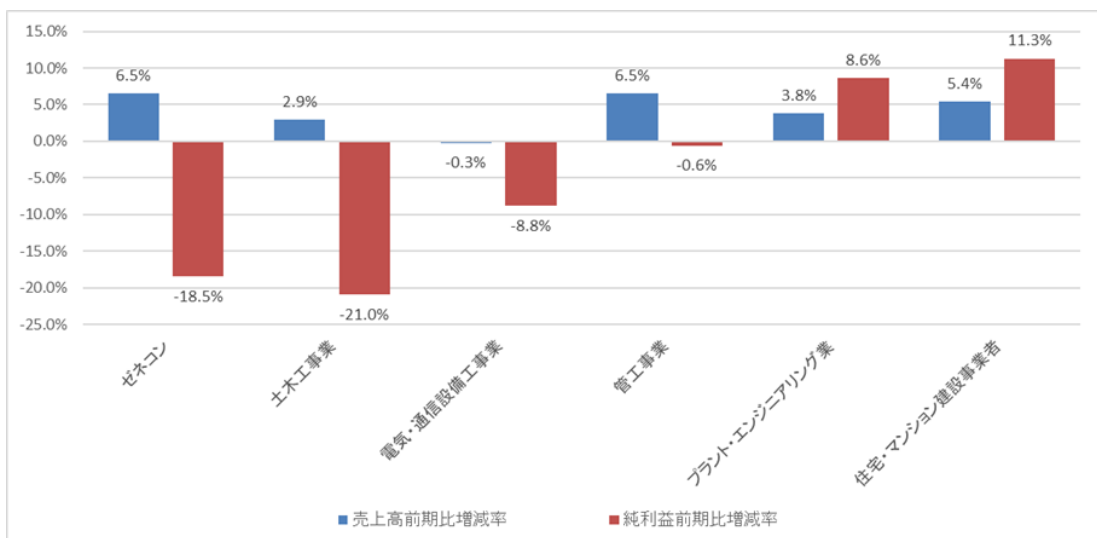
その中で土木工事業のみが売上高が前期比0.2%増、純利益は同13.2%増と好調でした。この背景には、民間建設需要が新型コロナウイルス感染拡大の影響等から減少する中、国土強靱化計画等の推進による公共の土木工事が底堅く推移したことが考えられます。また、電気・通信設備工事業も売上高は1.4%減と微減ながら純利益は11.7%増となっていますが、これは前述のように通信設備工事業の大手3社の貢献によるものです。

【図表19 2021年3月期決算 主要10社合計の前期比増減率】



主要10社の22年3月期の業績予想について見ると、5業種で売上高は前期を上回っており、新型コロナウイルス感染が再拡大するなかで不透明な要素を抱えながらも、建設需要は底堅いとみられているようです（図表20）。特にプラント・エンジニアリング業は売上高が3.8%増、純利益が8.6%増、住宅・不動産業は売上高が5.4%増、純利益が11.3%と好調な業績予想となっています。ただし、純利益はゼネコン、土木工事業で大幅に前期を下回るなど4業種で前期割れとなっており、厳しい受注環境の中で利益率の低下が予想されています。

【図表20 2022年3月期業績予想 主要10社合計の前期比増減率】



<総合工事業（ゼネコン）> 2021年度3月期決算概況

■ 9社が減収減益、主要10社合計で純利益15.2%減と厳しい決算

2021年3月期の決算は10社中9社が減収減益と厳しい決算になりました（図表21）。ゼネコン大手4社のうち鹿島建設を除く3社は売上高、純利益ともに前期比で2桁減となっています。主要10社合計でも売上高が同9.8%減、営業利益は同15.2%減、経常利益は同15.7%減、純利益は同15.2%減となっており、東京オリンピック・パラリンピック関連の需要が一段落し建設市場が端境期を迎えたことに加え、新型コロナウイルス感染拡大の影響もあり、総合工事業の業績は低迷しました。

【図表21 総合工事業主要10社の2021年3月期（連結）の実績】

企業名	2021年3月期								
	売上高 (百万円)	前期比 増減率	営業利益 (百万円)	前期比 増減率	経常利益 (百万円)	前期比 増減率	純利益 (百万円)	前期比 増減率	傾向
鹿島建設	1,907,176	-5.2%	127,298	-3.6%	139,729	-4.7%	98,522	-4.6%	減収減益
大林組	1,766,893	-14.8%	123,161	-19.4%	128,784	-19.0%	98,780	-12.7%	減収減益
大成建設	1,480,141	-15.5%	130,516	-22.2%	135,937	-21.6%	92,554	-24.2%	減収減益
清水建設	1,456,473	-14.2%	100,151	-25.2%	105,465	-23.6%	77,176	-22.0%	減収減益
長谷エコーポレーション	809,438	-4.3%	72,909	-15.1%	71,832	-15.7%	48,258	-19.4%	減収減益
前田建設工業	678,059	39.0%	46,343	36.1%	45,665	24.8%	23,275	62.3%	増収増益
戸田建設	507,134	-2.2%	27,697	-21.4%	30,363	-20.7%	19,735	-23.6%	減収減益
五洋建設	471,058	-17.9%	30,460	-8.1%	30,545	-6.1%	20,993	-10.1%	減収減益
三井住友建設	421,619	-10.7%	15,584	-37.1%	13,063	-45.3%	8,743	-43.8%	減収減益
フジタ(単体)	379,240	-27.2%	12,206	23.5%	8,866	3.6%	5,579	-7.2%	減収減益
合計	9,877,231	-9.8%	686,325	-15.2%	710,249	-15.7%	493,615	-15.2%	減収減益

* 「収益認識に関する会計基準」などを適用するため業績予想の対前期増減率を公表していない三井住友不動産についても単純計算で対前期増減率を記載している

■ 10社合計の売上高予想は6.5%増となるも純利益は18.5%減と減益予想

2022年3月期の業績予想は10社すべてが増収としており、売上高は底堅く推移すると考えられています（図表22）。ただし、営業利益、経常利益、純利益は6社が減少すると予想しています。10社合計でも営業利益は前期比16.2%減、経常利益は同17.4%減、純利益は同18.5%減となっており、厳しい受注環境を背景に利益率は低下するとの見方がされています。

【図表22 総合工事業主要10社の2022年3月期（連結）の業績予想】

企業名	2022年3月期の業績予想							
	売上高 (百万円)	前期比 増減率	営業利益 (百万円)	前期比 増減率	経常利益 (百万円)	前期比 増減率	純利益 (百万円)	前期比 増減率
鹿島建設	2,010,000	5.4%	104,000	-18.3%	114,000	-18.4%	80,000	-18.8%
大林組	1,910,000	8.1%	95,000	-22.9%	98,500	-23.5%	71,500	-27.6%
大成建設	1,640,000	10.8%	90,000	-31.0%	93,000	-31.6%	63,000	-31.9%
清水建設	1,550,000	6.4%	76,500	-23.6%	77,000	-27.0%	58,000	-24.8%
長谷エコーポレーション	850,000	5.0%	78,000	7.0%	75,000	4.4%	51,000	5.7%
前田建設工業	714,400	5.4%	46,700	0.8%	46,000	0.7%	23,500	1.0%
戸田建設	515,000	1.6%	23,600	-14.8%	25,700	-15.4%	16,900	-14.4%
五洋建設	491,000	4.2%	29,000	-4.8%	28,500	-6.7%	20,000	-4.7%
三井住友建設	432,000	2.5%	18,500	18.7%	16,000	22.5%	10,000	14.4%
フジタ(単体)	405,000	6.8%	14,100	15.5%	12,700	43.2%	8,500	52.4%
合計	10,517,400	6.5%	575,400	-16.2%	586,400	-17.4%	402,400	-18.5%

<土木工事業> 2021年度3月期決算概況

■ 6社が増益、10社合計で売上高0.2%増、純利益13.2%増と好調な決算

2021年3月期の決算は6社が増益、うち4社が増収増益となりました（図表23）。10社合計で売上高が前期比0.2%増、営業利益が同17.7%増、経常利益が同19.1%増、純利益が同13.2%増となっており、国土強靱化計画等を中心とした公共関連の土木工事への投資が堅調であることを背景に、前期に引き続いて好調な決算となっています。

【図表23 土木工事業主要10社の2021年3月期（連結）の実績】

企業名	2021年3月期								
	売上高 (百万円)	前期比 増減率	営業利益 (百万円)	前期比 増減率	経常利益 (百万円)	前期比 増減率	純利益 (百万円)	前期比 増減率	傾向
NIPPO	445,720	3.9%	44,697	23.4%	46,791	22.4%	31,068	31.7%	増収増益
前田道路	234,612	-1.3%	20,738	5.9%	21,078	6.0%	16,750	-11.0%	減収減益
東亜建設工業	189,712	-0.3%	8,714	9.5%	9,247	21.6%	6,859	37.0%	減収増益
東洋建設	172,976	-1.0%	14,259	53.8%	14,103	53.8%	9,176	59.1%	減収増益
大豊建設	161,697	-0.7%	9,066	6.5%	9,420	9.8%	6,262	-5.8%	減収減益
日本道路	157,796	6.1%	10,776	43.4%	11,293	43.8%	7,598	11.9%	増収増益
飛鳥建設	117,295	-13.0%	3,995	-49.1%	3,673	-50.2%	2,451	-52.0%	減収減益
ピーエス三菱	117,219	10.9%	8,396	72.0%	8,422	72.0%	5,592	74.0%	増収増益
川田テクノロジーズ	115,545	-9.1%	5,565	-17.7%	8,048	-5.8%	6,340	-1.7%	減収減益
東亜道路工業	111,801	2.5%	7,165	50.8%	7,258	49.1%	4,697	14.1%	増収増益
合計	1,824,373	0.2%	133,371	17.7%	139,333	19.1%	96,793	13.2%	増収増益

■ 10社合計の売上高予想は2.9%増となるも純利益は21.0%減と大幅な減益予想

2022年3月期の業績予想は6社が増収となっています（図表24）。10社合計でも前期比2.9%増となっており、好調な公共事業が底支えする構造で売上高は堅調に推移すると予想されています。ただし、営業利益は10社合計で前期比15.0%減、経常利益は同17.0%減、純利益は同21.0%減となっており、厳しい受注環境を背景に利益率は低下するとの見方がなされています。

【図表24 土木工事業主要10社の2022年3月期（連結）の業績予想】

企業名	2022年3月期の業績予想								
	売上高 (百万円)	前期比 増減率	営業利益 (百万円)	前期比 増減率	経常利益 (百万円)	前期比 増減率	純利益 (百万円)	前期比 増減率	
NIPPO	465,000	4.3%	42,000	-6.0%	44,000	-6.0%	29,000	-6.7%	
前田道路	240,000	2.3%	19,100	-7.9%	19,400	-8.0%	13,000	-22.4%	
東亜建設工業	223,000	17.5%	9,000	3.3%	8,700	-5.9%	6,000	-12.5%	
東洋建設	170,000	-1.7%	9,200	-35.5%	9,100	-35.5%	6,000	-34.6%	
大豊建設	160,000	-1.1%	8,600	-5.1%	8,600	-8.7%	5,600	-10.6%	
日本道路	158,000	0.1%	8,800	-18.3%	9,000	-20.3%	6,000	-21.0%	
飛鳥建設	132,000	12.5%	4,200	5.1%	3,800	3.4%	2,400	-2.1%	
ピーエス三菱	109,700	-6.4%	4,900	-41.6%	4,800	-43.0%	3,400	-39.2%	
川田テクノロジーズ	105,000	-9.1%	1,500	-73.0%	2,200	-72.7%	1,100	-82.6%	
東亜道路工業	115,000	2.9%	6,000	-16.3%	6,000	-17.3%	4,000	-14.8%	
合計	1,877,700	2.9%	113,300	-15.0%	115,600	-17.0%	76,500	-21.0%	

<電気設備工事業> 2021年度3月期決算概況

■ 10社合計で売上高1.4%減、純利益11.7%増、通信設備工事業大手3社が好調

2021年3月期の決算は通信設備工事業の協和エクシオ、コムシスホールディングス、ミライトホールディングスの3社が第5世代基地局の特需を背景に増収増益となりましたが、電気設備工事業のきんでん、関電工、九電工、トーエネックの大手4社は新型コロナウイルス感染拡大等の影響による民間設備投資の減少等を背景に減収減益となり、明暗が分かれました（図表25）。10社合計では、売上高は前期比1.4%減、営業利益は同3.7%増、経常利益は同4.3%増、純利益は同11.7%増となり、通信設備工事業の好調が貢献して全体としては堅調な決算結果となっています。

【図表25 電気設備工事業主要10社の2021年3月期（連結）の実績】

企業名	2021年3月期								
	売上高 (百万円)	前期比 増減率	営業利益 (百万円)	前期比 増減率	経常利益 (百万円)	前期比 増減率	純利益 (百万円)	前期比 増減率	傾向
協和エクシオ	573,339	9.3%	36,623	17.8%	38,186	24.5%	24,192	55.0%	増収増益
コムシスホールディングス	563,252	0.4%	41,572	6.7%	42,941	7.2%	29,369	13.0%	増収増益
きんでん	556,273	-5.1%	42,948	-4.6%	44,794	-4.1%	32,356	-0.4%	減収減益
関電工	556,045	-9.8%	30,041	-13.4%	31,043	-12.7%	20,147	-10.5%	減収減益
ミライトホールディングス	463,744	5.1%	30,129	37.0%	31,739	36.8%	24,205	59.0%	増収増益
九電工	391,901	-8.6%	32,998	-8.4%	35,906	-7.1%	25,042	-4.6%	減収減益
トーエネック	215,677	-4.1%	15,509	16.5%	13,726	9.7%	8,832	-5.2%	減収減益
ユアテック	197,092	-2.8%	8,484	25.5%	9,172	25.0%	5,763	28.9%	減収増益
日本電設工業	195,695	-1.3%	14,188	-14.0%	15,390	-13.0%	9,546	-15.3%	減収減益
中電工	184,482	9.2%	9,482	13.8%	11,899	6.4%	8,119	69.3%	増収増益
合計	3,897,500	-1.4%	261,974	3.7%	274,796	4.3%	187,571	11.7%	減収増益

■ 10社合計で売上高予想は0.3%減と堅調だが、純利益は8.8%減と減益予想

2022年3月期の業績予想はコムシスホールディングス、ミライトホールディングスの通信設備工事業2社が増収のほか、九電工、トーエネック、ユアテック、中電工の電気設備工事業4社も増収としており、10社合計で売上高は前期比0.3%減と微減にとどまると予想されています（図表26）。一方、営業利益は同4.9%減、経常利益は同5.5%減、純利益は同8.8%減と、厳しい市場環境の中での価格競争激化等を背景に利益率は低下すると見方がされています。

【図表26 電気・通信設備工事業主要10社の2022年3月期（連結）の業績予想】

企業名	2022年3月期の業績予想							
	売上高 (百万円)	前期比 増減率	営業利益 (百万円)	前期比 増減率	経常利益 (百万円)	前期比 増減率	純利益 (百万円)	前期比 増減率
協和エクシオ	560,000	-2.3%	37,000	1.0%	37,800	-1.0%	24,100	-0.4%
コムシスホールディングス	580,000	3.0%	43,000	3.4%	43,500	1.3%	29,000	-1.3%
きんでん	548,000	-1.5%	36,600	-14.8%	38,700	-13.6%	26,300	-18.7%
関電工	521,000	-6.3%	30,300	0.9%	31,300	0.8%	20,400	1.3%
ミライトホールディングス	470,000	1.3%	30,500	1.2%	32,000	0.8%	21,000	-13.2%
九電工	410,000	4.6%	35,000	6.1%	37,700	5.0%	25,500	1.8%
トーエネック	224,000	3.9%	12,500	-19.4%	11,000	-19.9%	7,200	-18.5%
ユアテック	220,000	11.6%	8,600	1.4%	9,000	-1.9%	5,600	-2.8%
日本電設工業	166,200	-15.1%	5,900	-58.4%	7,000	-54.5%	4,800	-49.7%
中電工	188,000	1.9%	9,700	2.3%	11,700	-1.7%	7,100	-12.6%
合計	3,887,200	-0.3%	249,100	-4.9%	259,700	-5.5%	171,000	-8.8%

<管工事業> 2021年度3月期決算概況

■ 10社すべてが減収、10社合計で売上高12.2%減、純利益16.4%減の厳しい決算

2021年3月期の決算は10社すべてが減収、うち9社が減収減益となりました（図表27）。10社合計も売上高が前期比12.2%減、営業利益は同23.1%減、経常利益は同20.8%減、純利益は同16.4%減となり、非常に厳しい決算となっています。

【図表27 管工事業主要10社の2021年3月期（連結）の実績】

企業名	2021年3月期								
	売上高 (百万円)	前期比 増減率	営業利益 (百万円)	前期比 増減率	経常利益 (百万円)	前期比 増減率	純利益 (百万円)	前期比 増減率	傾向
高砂熱学工業	275,181	-14.2%	12,300	-31.3%	13,902	-27.9%	10,116	-23.5%	減収減益
大気社	202,548	-10.1%	11,690	-24.3%	12,287	-23.2%	8,279	-9.3%	減収減益
三機工業	190,067	-8.5%	7,498	-29.7%	8,196	-27.0%	5,901	-22.1%	減収減益
ダイダン	157,712	-6.8%	8,754	-3.4%	9,262	-0.2%	6,318	-1.3%	減収減益
新日本空調	107,253	-10.7%	6,386	-0.4%	6,676	-2.0%	4,637	0.7%	減収増益
日比谷総合設備	73,119	-3.7%	3,997	8.3%	4,595	8.4%	3,075	-13.1%	減収減益
朝日工業社	70,435	-32.3%	2,235	-39.0%	2,486	-36.0%	1,821	-21.5%	減収減益
テクノ菱和	54,871	-9.9%	1,709	-59.9%	2,128	-52.7%	1,234	-57.8%	減収減益
大成温調	48,633	-16.3%	1,302	-30.7%	1,447	-32.1%	1,139	-22.9%	減収減益
ヤマト	43,767	-15.0%	3,081	-15.3%	3,369	-12.4%	2,288	-4.6%	減収減益
合計	1,223,586	-12.2%	58,952	-23.1%	64,348	-20.8%	44,808	-16.4%	減収減益

■ 10社合計で売上高予想は6.5%増、純利益は0.6%減と堅調な業績を予想

2022年3月期の業績予想は9社が増収、うち4社が増収増益としています。10社合計では、売上高が前期比6.5%増、営業利益は同3.4%増、経常利益は同1.5%増、純利益は同0.6%減となっており、売上高については落ち込みが激しかった今期を上回るとの見方がされています（図表28）。

【図表28 管工事業主要10社の2022年3月期（連結）の業績予想】

企業名	2022年3月期の業績予想							
	売上高 (百万円)	前期比 増減率	営業利益 (百万円)	前期比 増減率	経常利益 (百万円)	前期比 増減率	純利益 (百万円)	前期比 増減率
高砂熱学工業	300,000	9.0%	13,800	12.2%	15,000	7.9%	11,000	8.7%
大気社	218,000	7.6%	12,700	8.6%	13,500	9.9%	8,400	1.5%
三機工業	200,000	5.2%	9,500	26.7%	10,000	22.0%	7,000	18.6%
ダイダン	168,000	6.5%	7,500	-14.3%	7,700	-16.9%	5,200	-17.7%
新日本空調	110,000	2.6%	6,000	-6.0%	6,300	-5.6%	4,400	-5.1%
日比谷総合設備	77,000	5.3%	4,000	0.1%	4,500	-2.1%	3,000	-2.5%
朝日工業社	78,200	11.0%	1,850	-17.2%	2,060	-17.2%	1,350	-25.9%
テクノ菱和	58,000	5.7%	2,100	22.9%	2,300	8.0%	1,500	21.5%
大成温調	50,500	3.8%	550	-57.8%	730	-49.6%	510	-55.2%
ヤマト	43,500	-0.6%	2,930	-4.9%	3,230	-4.1%	2,180	-4.7%
合計	1,303,200	6.5%	60,930	3.4%	65,320	1.5%	44,540	-0.6%

<プラントエンジニアリング業> 2021年度3月期決算概況

■ 10社合計で売上高6.3%減、純利益10.4%減と厳しい決算となるも環境関連企業は増収増益

2021年3月期の決算は千代田化工建設と東洋エンジニアリングが大幅な減収減益となり、10社合計でも売上高が前期比6.3%減、営業利益は同9.4%減、経常利益は同1.1%減、純利益は同10.4%減と厳しい決算となりました（図表29）。ただし、水処理プラント等の環境関連プラントを中心に事業展開する栗田工業、メタウォーター、タクマの3社は増収増益となっており、得意分野によって明暗が出ています。

【図表29 プラント・エンジニアリング業主要10社の2021年3月期（連結）の実績】

企業名	2021年3月期								傾向
	売上高 (百万円)	前期比 増減率	営業利益 (百万円)	前期比 増減率	経常利益 (百万円)	前期比 増減率	純利益 (百万円)	前期比 増減率	
日揮	433,970	-9.7%	22,880	13.1%	25,506	14.0%	5,141	24.9%	減収増益
千代田化工建設	315,393	-18.3%	7,015	-73.8%	8,462	-54.6%	7,993	-34.4%	減収減益
栗田工業	267,749	1.1%	31,529	14.7%	29,150	9.2%	19,088	4.4%	増収増益
東洋エンジニアリング	184,000	-16.0%	1,615	-14.6%	2,781	12.7%	814	-51.0%	減収減益
タクマ	146,726	9.1%	10,473	9.1%	11,028	7.1%	7,529	1.1%	増収増益
レイズネクスト	145,914	3.8%	10,386	3.4%	10,657	4.1%	7,344	-40.1%	増収減益
メタウォーター	133,355	3.6%	10,863	32.1%	11,053	35.9%	6,542	15.2%	増収増益
太平電業	127,779	7.0%	7,400	-21.7%	8,329	-13.1%	5,613	-9.3%	増収減益
富士古河E&C	74,168	-9.5%	5,916	-0.2%	5,920	1.9%	3,902	6.1%	減収増益
田辺工業	38,123	1.1%	2,653	1.1%	2,742	2.1%	1,754	-6.7%	増収減益
合計	1,867,177	-6.3%	110,730	-9.4%	115,628	-1.1%	65,720	-10.4%	減収減益

■ 10社合計で売上高3.8%増、純利益8.6%増と好調な業績を予想

2022年3月期の業績予想は10社合計で売上高が前期比3.8%増となりました（図表30）。営業利益は同6.5%減、経常利益は同8.0%減と減少ですが純利益は同8.6%増となり、堅調な業績が予想されています。今期は非常に厳しい決算であった東洋エンジニアリングが大幅な増収増益に転じ、今期好調であった栗田工業は引き続き増収増益の予想となっています。

【図表30 プラント・エンジニアリング業主要10社の2022年3月期（連結）の業績予想】

企業名	2022年3月期の業績予想							
	売上高 (百万円)	前期比 増減率	営業利益 (百万円)	前期比 増減率	経常利益 (百万円)	前期比 増減率	純利益 (百万円)	前期比 増減率
日揮	470,000	8.3%	16,000	-30.1%	19,000	-25.5%	13,000	152.9%
千代田化工建設	300,000	-4.9%	11,000	56.8%	9,000	6.4%	6,000	24.9%
栗田工業	276,000	3.1%	32,000	1.5%	31,300	7.4%	21,100	10.5%
東洋エンジニアリング	240,000	30.4%	2,500	54.7%	2,500	-10.1%	1,500	84.1%
タクマ	137,000	-6.6%	10,400	-0.7%	11,000	-0.3%	7,600	0.9%
レイズネクスト	133,000	-8.9%	7,800	-24.9%	8,000	-24.9%	5,150	-29.9%
メタウォーター	135,000	1.2%	8,500	-21.8%	8,500	-23.1%	5,800	-11.3%
太平電業	127,000	-0.6%	7,000	-5.4%	8,800	5.7%	5,700	1.5%
富士古河E&C	82,000	10.6%	6,000	1.4%	5,980	1.0%	3,950	1.2%
田辺工業	39,000	2.3%	2,300	-13.3%	2,350	-14.3%	1,600	-8.8%
合計	1,939,000	3.8%	103,500	-6.5%	106,430	-8.0%	71,400	8.6%

※「収益認識に関する会計基準」などを適用するため業績予想の対前期増減率を公表していない日揮についても単純計算で対前期増減率を記載している

<住宅建設業> 2021年度3月期決算概況

■ 8社が減収、6社が減収減益、10社合計で売上高4.2%減、純利益13.1%減の厳しい決算売

2021年3月期の決算は8社が減収、うち6社が減収減益となりました（図表31）。10社合計でも売上高が前期比4.2%減、営業利益は同10.6%減、経常利益は同11.8%減、純利益は同13.1%減と厳しい決算となっています。増収増益は飯田グループホールディングスのみでした。

【図表31 住宅・不動産業主要10社の2021年3月期（連結）の実績】

企業名	2021年3月期								
	売上高 (百万円)	前期比 増減率	営業利益 (百万円)	前期比 増減率	経常利益 (百万円)	前期比 増減率	純利益 (百万円)	前期比 増減率	傾向
大和ハウス工業	4,126,769	-5.8%	357,121	-6.3%	337,830	-8.1%	195,076	-16.5%	減収減益
三井不動産	2,007,554	5.3%	203,770	-27.4%	168,865	-34.7%	129,576	-29.6%	増収減益
大東建託	1,488,915	-6.1%	86,738	-32.2%	90,607	-31.9%	62,285	-31.1%	減収減益
飯田グループホールディングス	1,456,199	3.9%	121,263	45.2%	119,685	51.9%	83,316	55.0%	増収増益
三菱地所	1,207,594	-7.3%	224,394	-6.8%	210,965	-3.9%	135,655	-8.6%	減収減益
積水化学工業	1,056,560	-6.4%	67,300	-23.5%	62,649	-28.2%	41,544	-29.8%	減収減益
住友不動産	917,472	-9.5%	219,244	-6.4%	209,949	-4.8%	141,389	0.3%	減収増益
野村不動産ホールディングス	580,660	-14.2%	76,333	-6.8%	65,965	-9.7%	42,198	-13.7%	減収減益
スターツコーポレーション	198,963	-4.8%	22,068	-7.7%	23,323	-3.3%	15,599	3.6%	減収増益
タカラレーベン	148,397	-11.9%	10,789	-9.3%	9,933	-11.3%	4,693	-12.5%	減収減益
合計	13,189,083	-4.2%	1,389,020	-10.6%	1,299,771	-11.8%	851,331	-13.1%	減収減益

■ 10社合計で売上高5.4%増、純利益11.3%増と好調な業績を予想

2022年3月期の業績予想は10社中9社が増収増益となっています（図表32）。10社合計で売上高が前期比5.4%増、営業利益は同3.6%増、経常利益は同5.5%増、純利益は同11.3%増であり、売上、利益ともに好調な業績を予想しています。住宅市場は人口減少を背景に基本的に縮小傾向だと考えられますが、低金利体制の継続、住宅ローン減税の再延長等の政府による住宅取得支援策等を背景に、需要は底堅いという見方がされているようです。

【図表32 住宅建設業主要10社の2022年3月期（連結）の業績予想】

企業名	2022年3月期の業績予想								
	売上高 (百万円)	前期比 増減率	営業利益 (百万円)	前期比 増減率	経常利益 (百万円)	前期比 増減率	純利益 (百万円)	前期比 増減率	
大和ハウス工業	4,300,000	4.2%	320,000	-10.4%	316,000	-6.5%	215,000	10.2%	
三井不動産	2,150,000	7.1%	230,000	12.9%	205,000	21.4%	160,000	23.5%	
大東建託	1,570,000	5.4%	94,000	8.4%	97,000	7.1%	65,000	4.4%	
飯田グループホールディングス	1,470,000	0.9%	128,000	5.6%	125,000	4.4%	86,000	3.2%	
三菱地所	1,326,000	9.8%	245,000	9.2%	220,000	4.3%	142,000	4.7%	
積水化学工業	1,132,600	7.2%	86,000	27.8%	86,000	37.3%	60,000	44.4%	
住友不動産	920,000	0.3%	228,000	4.0%	221,000	5.3%	150,000	6.1%	
野村不動産ホールディングス	680,000	17.1%	77,000	0.9%	72,500	9.9%	49,500	17.3%	
スターツコーポレーション	195,000	-2.0%	22,500	2.0%	22,300	-4.4%	15,200	-2.6%	
タカラレーベン	158,600	6.9%	7,900	-26.8%	7,100	-28.5%	4,800	2.3%	
合計	13,902,200	5.4%	1,438,400	3.6%	1,371,900	5.5%	947,500	11.3%	

※「収益認識に関する会計基準」などを適用するため業績予想の対前期増減率を公表していないスターツコーポレーション、タカラレーベンについても単純計算で対前期増減率を記載している

<お問い合わせ先>

ヒューマンリソシア株式会社

「建設HR」編集部 E-mail : hrouken@athuman.com

〒160-0023 東京都新宿区西新宿7-5-25 西新宿プライムスクエア1階

URL : <https://kensetsu-hr.resocia.jp/>